

## さくら市議会広報委員会視察研修報告書

議会広報委員会では、令和2年9月30日、同県内である足利市議会を訪れ、議会だよりの紙面づくり、議会報告会の実施方法、中学生への出前授業について、同市議会、広報広聴常任委員会の委員の皆様々に直々に研修を行っていただきました。

参加者は、岡村浩雅委員長、高瀬一徳委員、吉田雄次委員、櫻井秀美委員、笹沼 昭司委員、石原孝明委員、福田克之委員、鈴木恒充委員、事務局職員2名、そして私、副委員長の大河原千晶であります。

詳細は以下のとおりです。

### 足利市議会

#### 概要

栃木県の南西部に位置する足利市は、市の北部に足尾山地、南部に関東平野、中央部に渡良瀬川が広がる自然豊かな地です。日本最古の学校とされる史跡足利学校をはじめ史跡を数多く有し、さくら市においても縁の深い足利氏発祥の地としても知られています。一族の民館だった鑿阿寺は寺院でもあるにもかかわらず「日本100名城」に選ばれています。一方で、人気アイドルBISHのPVの撮影地であったり、映画「今日から俺は！」のロケ地であるなど、若い世代からの注目度も高く、さすがシティプロモーションとして「素通り禁止！足利」を掲げているだけあり、目が離せない自治体であると感じました。

### 研修内容

足利市議会広報公聴委員会の特徴は大きく分けて3つです。

まず1つ目は、委員会が常任委員会であるということ。2つ目は市内中学校に議員が自ら出向き「出前授業」を行っていること。3つ目は市民に対し、「議会報告会・意見交換会」を行っていること。この3つの特徴がそれぞれにうまく働きかけ、議会だよりを通じて市民へ開かれた議会としての位置づけを守っています。

まず1つ目の常任委員会であるという特徴について、これは全国的に見ても珍しいことです。昨年令和元年度に常任委員会化したばかりなのですが、それまでとちがい条例に基づいて組織された委員会は議会での報告義務が生まれます。公式的な議会の場で、議事録もきちんと残る形で活動を報告できます。また、視察旅費を議会の予算として組み込めることができるようになりました。それによって遠方にも勉強に行くこともでき、紙面づくりのプロである新聞社への研修も叶ったそうです。常任委員会となったことでより一層責任感が強くなり、活動にもそれが反映されたと話されていたのが印象的でした。

2つ目の「出前授業」については、現在全国的にも取り沙汰されている「政治離れ」がきっかけではじまりました。特に若い世代における政治離れを不安視する声が足利市においても高まり、投票率の向上、若者の政治参画を実現するためには若い世代の育成

が必要だと考えるようになったそうです。そこで、当時の学校教育課長と広報公聴委員会委員長が同級生であったことも手伝って、市内11校の中学3年生の公民の授業における、市議会議員を講師とした出張授業を進めました。平成30年3月から検討を開始し、その年の12月には出前授業を実施実現しました。授業には議員全員で出向き、学年全体に説明をおこなったのち、各教室に議員二人ずつを配置し、質疑応答を実施します。その際には期数の長い議員と新人議員をペアにするなど、それぞれの得意分野が活かされるような人員配置を工夫されているとのことでした。我々が研修に伺った際も委員の皆さんによるデモンストレーションを行っていただきました。自己紹介は簡潔明瞭、自身にあだ名をつける、中学生にも伝わりやすくわかりやすい言葉を使うなどの工夫が随所にちりばめられていました。共通して中学生の議員におけるイメージは「近寄りがたい」遠い存在であるそうですが、授業終了後にはあだ名を大きな声で呼んで別れを惜しむ姿もあるなど、議会と議員が身近に感じられる、中学生にとっても良い機会になっていると感じました。事実今年度で3年目を迎えています、回を重ねるたびに好評を博し、今では中学校側からのオファーも後を絶たないほど人気がある授業だそうです。議会としてのまとまりが試される場面で、苦手・得意をカバーしあいながらそれぞれが特性を活かすというのは、個性が強い議会において大変難しいことです。個ではなく、「チームあしかが」で取り組んでいることが高評価を得ている秘訣なのではないかと感じました。

3つ目の議会報告会・意見交換会は、わがさくら市議会でも開催している事業のひとつですが、足利市議会では一貫して意見交換会をメインとし、方式をワークショップ形式に統一して開催しています。地区公民館単位で細かく実施し、意見交換会では10人程度のグループに分かれてもらい、議員を2名ずつ各グループに配置します。そこから車座になってテーマフリーで市民より自由に発言してもらいます。質問に加え、厳しい意見や要望も市民から挙げられますが、「すべてを一旦うけとめる」という姿勢で臨むことを全議員の共通認識として共有しているそうです。後日、①グループごとにどんな内容が話されたか意見等をまとめ広報公聴委員会の広聴部会に提出。②その意見を各常任委員会の所管事項ごとに分ける ③振り分けられた意見・要望等を常任委員会で2項目程度に集約してもらいそれに対する議会としての意見をまとめ広聴部会に提出 ④広聴部会から広報広聴委員会全体で諮ったのち、市長へ提出する。という細かいプロセスを経ます。今までは常任委員会ごとで報告会を開催していたそうですが、議論に直接加わっていない所管以外の質問にきちんとした回答ができない等の課題もあり、市民にとって一番いい形を目指し今後は混成で開催する方向だそうです。

足利市議会広報広聴委員会では以上の3つの特徴があることで、「市民に近い開かれた議会」の実現に寄与しています。そのかいあって議会だよりにおいても市民参画の場が実現できており、表紙や愛称の公募等に対しても多く応募が寄せられていました。広報広聴委員会では、広報と広聴の分野を明確に分け、それぞれ作業部会を編成し少数精鋭で運営を進めています。これにより意見がまとまりやすく、スピーディーかつスムーズに物事を進められるそうです。これも、常任委員会化してからの運営方式だそうです。

今回の視察では、運営の方法からさくら市では行っていない事業まで大変学びの多い視察研修でした。しかし、なにより足利市議会の議員の皆さんが、やりがいと目的意識をしっかりと持ち進むべき方向へ進んでいる姿に刺激を受けました。わがさくら市議会でも議会だよりの持つ役割や意味を改めて見つめなおし、今後の紙面づくりに反映させていきたいと思えます。

